



not の使い方

「do [does, did] + not + 動詞」や「be + not ...」のような not を用いた否定表現は (A) 形で表すことが多い。また、命令文は常に「Don't + 動詞の原形」を用いる。「～で(は)ないのですか?」という否定疑問は文頭で助動詞の (A) 形を用いるが、堅い言い方では「助動詞 + 主語 + (B)」の形にすることがある。

- 01 そんなかたくならずに、気楽にしてよ。(適語を記入)
() () so nervous. Just relax.
- 02 「スプーンは1つもないの?」「いいえ、2つあります」
"() () have any spoons?" "(), I have two spoons."
- 03 どうして彼らは私達の言っていることがわからないのでしょうか。
Why () they () understand what we are saying?
- 04 毎日運動をしているのに、どうして体重が減らない(←減っていない)のかしら?
I work out every day. Why () () () losing weight?



never の使い方

「常に～ない」という否定は (A) で表す。(A) は「not + (B)」に置き換えることができる。(A) は一般動詞の場合は「前」に置き、be 動詞・助動詞の場合は「後」に置くが、動詞を省略する場合や助動詞を強調する場合は (C) に置く。

- 05 どんな時もあきらめない。それが我々のモットーです。(適語を選択)
(Never, Don't) give up, that's our motto.
- 06 挑戦するまでは自分の能力は決してわからない。(下線部に間違いがあれば訂正)
You never can tell what you can do till you try.
- 07 「飛行機に乗ったことは一度もないの?」「ええ、一度も」(間違いがあれば訂正)
"Have you never flown before?" "Yes, I have never."
- 08 それは私が一番好きなテレビドラマで、見逃すことは絶対にありません。
It's my favorite drama on TV and I never () miss it.



否定語の位置 ①

否定の意味が及ぶ範囲は通常、否定語の(A)に置かれた語句である。否定語を really や clearly などと共に用いる場合、否定語の位置によって意味が変わるので注意が必要である。

09 (下線部(否定語)の意味が及ぶ範囲に注意し、各文を和訳)

- a) I don't really like horror movies.
- b) I really don't like horror movies.
- c) He didn't clearly say anything about it.
- d) He clearly didn't say anything about it.
- e) Success is not always easy to grasp.
- f) Success is always not easy to grasp.

10 (次の英文は2通りの解釈ができる。それぞれの解釈を a) と b) で表す)

I didn't call him because I was busy.

- a) Because ...
- b) It was ...



否定語の位置 ②

「～ではないと思う」や「～ではないようだ」は英語では「I don't think + 肯定文」「... doesn't seem + 肯定文」のように述語動詞を否定形にするのが一般的である。「I think + 否定文」「... seem + 否定形」のように内容を否定形にする言い方は、強い主張や断定的な言い方になり、あまり一般的ではない。

11 リーはいい奴だよ。でも、優れたヘッドコーチではないと思う。

Lee is a good guy, but I () () () () a good head coach.

12 この噂が本当でないことを願っています。

I hope this rumor is not true.

13 この前もらったメールが見つからないみたいなんだ。もう一度送ってもらえる？

I can't () () find your last e-mail. Could you resend it to me?